

祝辞

武蔵大学及び大学院へ御入学の皆さん、誠におめでとうございます。今日までの勉強と努力の甲斐があって、この伝統ある武蔵大学へ入学された皆さんに心からお祝いの言葉を送ります。又このように優れた御子弟をお育てになられた御父母を初め御親族の方々にもお祝い申し上げます。

武蔵大学が創立されたのは、一九四九年であります。武蔵大学の前身は、一九二二年に創立された旧制武蔵高等学校であり、そこから数えますと武蔵学園は今年二〇一五年までに、創立以来九十三年と言う長い歴史を築いてきたこととなります。そして二〇二二年には創立一〇〇周年を祝おうと、武蔵大学、武蔵高等学校・中学校の三者が協力して、武蔵学園一〇〇周年記念事業と取り組んでいるところです。その事業の一貫として、朝霞グラウンド施設整備を含めこの江古田キャンパスの整備が、次々に行われる予定であります。現在も武蔵野の面影を残した美しいキャンパスは更に充実したものになることは間違いありません。

武蔵学園は、旧制高等学校以来三つの理想を目指して教育を行っております。その三つの理想とは、皆さんを

- 一、東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
 - 二、世界に雄飛するにたえる人物
 - 三、自ら調べ自ら考える力のある人物
- へと育成することであります。これは一〇〇年に近い過去に立てられた理想ではありませんが、まったく古くなく、急激に国際化が進みグローバル化が叫ばれる現代の教育においても極めて適切なものです。改めて本学の先駆者に敬意を表する次第です。

昨年三月根津公一理事長はこの理想に基き理事長ドクトリンを発表され、「まなざしを世界に向け、二十一世紀の課題を担う国際人を育てる学校を目標とする」ことを提案されました。ここで学校とは武蔵大学、武蔵高等学校、そして武蔵中学校全体を意味します。それを受けて昨年十月には学園長プランが作られ、その大きな目標を「世界に開かれたリベラルアーツの学園となることを目指す」としました。勿論大学では優れた専門教育をすることも大きな使命であることは明らかです。

皆さんは既にどの専門学部で学ぶかを決めて武蔵大学に入学されました。しかし更

にもう一度、ここで何を学ぶかを考えて、将来の方向をしっかりと定めて下さい。その時何と言っても自分がやりたいこと、好きなこと、将来の理想とすることをきっちり決めて計画を立てることが第一です。「好きこそもの上手なれ」という諺がありますが、私もその通りだと思います。好きなこと、やってみたいことに向かって情熱を傾けて下さい。

私の経験から皆さんにお勧めしたいことがあります。それは今申したように先ず自分が好きであり得意な分野に精通して、人に負けないようになることです。狭くても良から、一つの分野でしっかりとした力を持つことです。そのための学習に際して先ほど述べた武蔵学園の教育理念の一つ、自ら調べ自ら考えるところという手段は極めて有効な方法です。急速に変化するこの時代には今まで人類が経験しなかったようなことがしばしば起ります。それ程大きなことでなくても、日常生活の中でも先輩や友人を含めて、どういう対策を立てたらよいか判らないことがあります。その時自ら調べ自ら考える力が役に立つのです。私も物理学者として何度もそれまで誰も考えたことがなく答えの全くわからない問題に直面しました。それを幾つか解決できたのはまさに母校武蔵高校で学んだ自ら調べ自ら考えたからでした。

もう一つ強調したいことがあります。自ら調べ自ら考える人物になると同時にこの国際化した時代、目を外に向けていただきたいのです。その手段として外国語特に英語を学んでいただきたいのです。現在武蔵大学はロンドン大学と協力してパラレル・デューグリー制度を導入しようとしています。また長年アメリカの代表的州立大学の一つであるテンプル大学の日本校と協力して武蔵大学生がテンプル大学日本校の講義を受けたり、逆にテンプル大学日本校の学生が武蔵大学で学べるようになっていきますから、大いにこのような制度を利用して下さい。また武蔵コミュニケーションヴィレッジなどで外国語教育を学ぶさまざまな便宜が計られていますからこれも大いに活用して下さい。その上で皆さんの中から世界に雄飛する人々が沢山出ることを心から願っています。

この武蔵大学及び大学院で皆さんが、健康に気をつけ、学問に励み、運動に汗を流され、澆刺とした日々を送られることを祈念しつつ、祝辞を終わります。皆さんご入学誠におめでとうございます。

平成二十七年四月二日

武蔵学園長 有馬 朗人